

## 考古調査士（1級・2級）の資格取得ガイダンス資料

### (1) 考古調査士資格とは

考古調査士は、考古資料・埋蔵文化財の調査に関わる経験を積んだ人の知識や調査能力を証明する資格である。大学で単位を修得し、必要な要件を満たすことで、考古調査士資格認定機構から資格が認定される。

2008年度から開始された比較的新しい仕組みであるが、すでに1000名以上の有資格者が排出されている。現在のところ、埋蔵文化財の調査や、遺跡の発掘を行うために、特定の資格が必要とされているわけではない。しかし、コンプライアンスや説明責任が重視される社会状況からみて、文化財保護法で規定される「国民共有の財産」を調査するための資格の必要性はさらに高まっていくと予測され、大学の教員だけでなく、自治体・埋蔵文化財センターの専門職員、博物館の考古学担当学芸員、各種研究所の研究者としての就職にあたっても考慮される重要な要素となる可能性がきわめて高い。

### (2) 資格の概要

考古調査士資格には、**学部在学時**に取得できる2級考古調査士、大学院**修士課程もしくは博士課程在学時**に取得できる1級考古調査士がある。いずれも、文学部または文学院が開講している複数の授業科目の単位を習得し、考古調査士資格認定機構から認定されると取得できる。（このほかにも、社会人用のコースを修了した者が取得できる上級考古調査士があるが、北海道大学ではこのコースは開講しない）。

### (3) 2級考古調査士資格の取得要件

- ①別表1に掲げる科目のうち、必修科目のすべて、および選択科目を履修し、必要な要件を満たすこと。
- ②**2年・3年次でも必要科目がそろえば取得可能。**
- ③必要な単位の修得後、考古調査士資格認定機構が定める方法により、同機構に資格申請を行うこと（2級の申請料は2万5千円）。

### (4) 2級考古調査士資格の取得に必要な文学部の授業科目と履修上の注意

- ①別表1に掲げる科目のうち、必修科目のすべて（2科目）、および選択科目（3科目以上）を履修し、計10単位以上を修得すること。ただし、最低3科目群から10単位を習得することとし、同一科目群内では最高2科目4単位まで申請できる。
- ②資格取得に必要な科目は変わることがあるので、毎年4月の資料で確認すること。2023年度に資格申請する場合、利用できる科目は別表3のとおりである。別表1にはいつていたとしても、別表3にない科目の単位は資格取得には使えないので注意すること。

③2級考古調査士に関するガイダンス（オンデマンド）を毎年4月に実施するので、取得を希望する者は、必ず出席すること。出席しない場合は、原則として資格の取得はできない。

別表1

科目区分	授業科目（授業題目には毎年ことなる西暦が付されるものがある）	科目群	単位数
必修科目	考古学（文化財行政の基礎）	5	2
	考古学（文化財の保存と活用）	5	2
選択科目	考古学概論（学史と資料論）	1	2
	考古学概論（理論と方法）	1	2
	考古学（日本考古学特論）※	3	2
	考古学（東北アジア考古学特論）※	3	2
	考古学（北海道の考古学 旧石器～縄文）※	3	2
	考古学（北海道の考古学 続縄文～現代）※	3	2
	考古学（縄文文化の考古学）※	3	2
	考古学（弥生文化の考古学）※	3	2
	考古学（考古科学の基礎）	6	2
	考古学実習（礼文華遺跡発掘調査）	4	2
	考古学演習（考古学の基礎技術（土器研究法））	4	2
	考古学演習（考古学の基礎技術（石器研究法））	4	2
考古学演習（考古資料整理の実践）	4	2	

注1. ※は毎年開講ではない科目。開講計画は別表5を参照。

#### (5) 1級考古調査士資格の取得要件

- ①2級考古調査士の資格を有していること。
- ②別表2に掲げる科目のうち、必修科目のすべて、および選択科目を履修し、資格要件を満たすこと。
- ③必要な単位の修得後、考古調査士資格認定機構が定める方法により、同機構に資格申請を行う（1級の申請料は3万円）。

#### (6) 1級考古調査士資格の取得に必要な文学部の授業科目と履修上の注意

- ①別表2に掲げる科目のうち、必修科目のすべて（2科目）、および選択科目（2科目以上）を履修し、計8単位以上を修得すること。
- ②資格取得に必要な科目は変わることがあるので、毎年4月の資料で確認すること。2023年度に資格申請する場合、申請に利用できる科目は別表4のとおりである。別表2に

はいていたとしても、別表4にない科目の単位は使えないので注意すること。

- ③1級考古調査士に関するガイダンス（オンデマンド）を毎年4月に実施するので、取得を希望する者は、必ず出席すること。出席しない場合は、原則として資格の取得はできない。

別表2

科目区分	授業科目（授業科目には毎年ことなる西暦が付されるものがある）	単位数
必修科目	考古学特殊講義（文化財行政の現状と課題）	2
	考古学特別演習（文化財の保存と活用）	2
選択科目	考古学特別演習	2
	北方考古学特別演習	2
	環境考古学特別演習	2
	考古科学特別演習	2
	考古学特殊講義	2
	考古学特別実習（礼文華遺跡発掘調査）	2
	考古学特別実習（K39 遺跡の調査と研究）	2

### (7) その他

- ①2級・1級考古調査士に関する相談と申請は、2023年度は文学院・文学部の考古調査士連絡責任者である**國木田大** ([kunikita@let.hokudai.ac.jp](mailto:kunikita@let.hokudai.ac.jp)) が担当する。
- ②2級・1級考古調査士については、考古調査士資格認定機構のホームページ (<http://www.jabar.jp/index.html>) をあわせて参照すること。
- ③資格申請にあたっては、自分が習得した単位のうちの科目で資格申請する予定かをあらかじめ上記連絡責任者にメールで伝え、要件を満たしていることの確認を受ける（連絡は2月中旬の単位取得確定後すみやかに行うこと）。教務にて特別に「単位修得証明書」を作成してもらおう（手続きは上記連絡責任者）。
- その後、「単位修得証明書」と所定の資格申請書を機構に郵送して審査を受ける（毎年2月初旬～3月中旬）。電子申請ののち1週間以内に、申請料を所定の銀行口座に振込む必要がある。
- ④他学部履修で資格取得に必要な科目を履修しようとする者は、履修登録前に上記連絡責任者に履修計画（どの学年でどの科目を履修する予定かがわかればよい）をメールで提出し、承認を受けること。
- ⑤すでに卒業、修了した者も申請できるが、1) 資格申請時に現役の学生であり、2) 必修単位をすべて取得している、必要がある。この場合は、過去3年間のあいだで別表6

にある科目（別表3・4にある科目に相当）の単位を選択科目として利用できる。たとえば、2019～2022年度に一部単位を修得して北大の学部を卒業し、2023年度に北大の大学院に進学して大学院生として引き続き学生である場合、2023年度に残りの単位を修得し、なおかつ別表6にある科目の単位によって選択科目の単位数を満たすことができるときは、2023年度末に2級の資格を申請することができる。また、引き続き2024年度に、要件を満たしたうえで1級の資格も申請できる。

⑥1級と2級は同時に申請できないので、大学院で1級まで取得しようとする者は計画的に単位を修得し、申請しなければならない。

別表3 2023年度該当科目一覧（学部）

科目名称	単位	科目担当者名	職名	科目群
考古学実習（礼文華遺跡発掘調査2023）	2	小杉康，高瀬克範， 國木田大	教授，准教授	4
考古学演習（考古資料整理の実践2023-1）	2	小杉康，高瀬克範， 國木田大	教授，准教授	4
考古学演習（考古資料整理の実践2023-2）	2	小杉康，高瀬克範， 國木田大	教授，准教授	4
考古学演習（考古学の基礎技術（土器研究法）2023）	2	小杉康	教授	4
考古学演習（考古学の基礎技術（石器研究法）2023）	2	高瀬克範	教授	4
考古学（文化財行政の基礎2023）	2	國木田大	准教授	5
考古学（考古学の基礎2023）	2	國木田大	准教授	6
考古学（文化財の保存と活用2023）	2	國木田大	准教授	5
考古学（東北アジア考古学特論2023）	2	高瀬克範	教授	3
考古学概論（学史と資料論2023）	2	小杉康	教授	1

別表 4 2023 年度該当科目一覧（大学院）

考古学特殊講義（文化財行政の現状と課題 2023）	2	國木田大	准教授	5
考古学特別演習（文化財の保存と活用 2023）	2	國木田大	准教授	5
考古学特別演習（先史文化の土器と社会 2023-1）	2	小杉康	教授	3
北方考古学特別演習（物質文化と先史社会 2023-1）	2	高瀬克範	教授	3
考古科学特別演習（考古科学の実践 2023）	2	國木田大	准教授	6
考古科学特別演習（考古学と考古科学 2023）	2	江田真毅	准教授	6
考古学特別実習（礼文華遺跡発掘調査 2023）	2	小杉康, 高瀬克範, 國木田大	教授, 准教授	4
考古学特別実習（K39 遺跡の調査と研究 2023）	2	高倉純	助教	4
考古学特別実習（文化資源としての埋蔵文化財 2023）	2	中澤祐一	助教	5

別表 5 「考古学概論」と選択科目の「考古学」の開講予定

	2023	2024	2025
前	考古学（東北アジア考古学特論）（高瀬）	考古学（日本考古学特論）（小杉）	考古学（弥生文化の考古学）（高瀬）
後	考古学概論（学史と資料論）（小杉）	考古学概論（理論と方法）（高瀬）	考古学概論（学史と資料論）（?）

別表6 2019～2022年度の開講科目で2023年度に1級・2級の資格取得に利用できる科目

コース	科目名(講義題目)	科目群	必・選	単位	2019	2020	2021	2022
学部 コース	考古学実習(礼文華遺跡発掘調査■)	4	選択	2	○ 考古学実習(礼文華遺跡発掘調査2019)	○	○	○
	考古学演習(考古資料整理の実践■-1)	4	選択	2	○ 考古学時演習(考古資料整理の実践2019-1)	○	○	○
	考古学演習(考古資料整理の実践■-2)	4	選択	2	○ 考古学時演習(考古資料整理の実践2019-2)	○	○	○
	考古学演習(考古学の基礎技術(土器研究法)■)	4	選択	2	○ 考古学演習(考古学の基礎技術(土器研究法))	○	○	○
	考古学演習(考古学の基礎技術(石器研究法)■)	4	選択	2	○ 考古学演習(考古学の基礎技術(石器研究法))	○	○	○
	考古学(文化財行政の基礎■)	5	必修	2		○	○	○
	考古学(考古学の基礎■)	6	選択	2		○	○	○
	考古学(文化財の保存と活用■)	5	必修	2		○	○	○
	考古学(縄文文化の考古学■)	3	選択	2		○	X	X
	考古学(弥生文化の考古学■)	3	選択	2		X	X	X
	考古学(北海道の考古学(旧石器～縄文)■)	3	選択	2		X	X	○
	考古学(北海道の考古学(縄文～現代)■)	3	選択	2		X	○	X
	考古学(日本考古学特論■)	3	選択	2		X	X	X
	考古学(東北アジア考古学特論■)	3	選択	2		X	X	X
	考古学概論(学史と資料論■)	1	選択	2		X	○	X
考古学概論(理論と方法■)	1	選択	2	○ 考古学概論(理論と方法)	○	X	○	
大学院 コース	考古学特殊講義(文化財行政の現状と課題■)	5	必修	2		○	○	○
	考古学特殊講義(考古学と人類誌■)	3	選択	2		X	X	X
	考古学特別演習(文化財の保存と活用■)	5	必修	2		○	○	○
	考古学特別演習(先史文化の土器と社会■-1)	3	選択	2	○ 考古学特別演習(先史文化の土器と社会2019-1)	○	○	○
	北方考古学特別演習(物質文化と先史社会■-1)	3	選択	2	○ 北方考古学特別演習(物質文化と先史社会2019-2)	○	○	○
	考古学特別演習(考古学と考古科学■)	3	選択	2	○ 考古学特別演習(考古学と考古科学2019)	○	X	○
	考古学特別演習(考古科学の実践■)	3	選択	2		X	○	○
	環境考古学特別演習(環境考古学と動物考古学■)	3	選択	2		X	○	X
	考古学特別実習(礼文華遺跡発掘調査■)	4	選択	2	○ 考古学特別実習(礼文華遺跡発掘調査2019)	○	○	○
	考古学特別実習(K39遺跡の調査と研究■)	4	選択	2	○ 考古学特別実習(K39遺跡の調査と研究019)	○	○	○
	考古学特別実習(文化資源としての埋蔵文化財■)	5	選択	2		X	X	○

※大学院コース(考古学特別演習(文化財の保存と活用 2020))は科目群6で申請すること。  
2021年度から科目群5で申請。

大学院コース(北方考古学特別演習(物質文化と先史社会))は、2021年度は(北方考古学特別演習(物質文化と先史社会 2021-2))、2022年度からは北方考古学特別演習(物質文化と先史社会 2021-1))が対象。